

調査概要

1. 応募団体	東京都港湾局 担当者：嶋村與志 / 芳賀竜爾 連絡先： 03-5320-5613
2. 調査名	運河ルネッサンス構想調査
3. 推薦団体名	
4. 調査の対象地域	
(1) 対象となる行政区域名、地区名等	芝浦地区 ○ 東京都港区芝浦（芝浦 1～4 丁目、芝浦アイランド、海岸 2～3 丁目） 天王洲地区 ○ 東京都品川区（東品川 1～2 丁目、北品川 1 丁目、品川 1 丁目、（港南 2 丁目（港区）））
(2) 対象となる行政区域及び地区の特徴	芝浦地区 ○ 芝浦地区は JR 田町駅の東側、住宅・商業・業務・文教が一体となった地区。芝浦アイランド（通称）では、約 4,000 世帯住宅地が創出予定。 天王洲地区 ○ 天王洲地区は、平成 4 年（1992 年）年以降に順次整備されてきた天王洲アイル地区と旧東海道や漁師町の品川浦といった新旧のまち。
5. 調査の対象地域	
(1) テーマ、課題	東京臨海地域は、東京圏の都市活動を支え牽引していく都市再生のリーディングエリアとして、豊かな環境を備えたまちづくりを行っていく地域である。この地域はかつて、江戸の時代から水域と陸域とが密接に連結した営みがあったが、今、そうした水とのふれあいが失われている。 これからのまちづくりにおいては、水とのふれあいを「運河」によって回復して、居住者や来訪者、そこで働く人々に憩いと賑わいの場を提供しアーバン・リゾート・ネットワークの形成をめざす「運河ルネッサンス」に取り組む。 この調査では区や民間との協議会活動をもとに、まちづくりと一体的な護岸整備や運河の利用の規制緩和、にぎわい創出事業などにより運河周辺地区を活性化させる方策を探る。

5. 調査の対象地域	
<p>(2) 本調査費による活動内容の概要</p>	<p>本調査費において行われた活動内容の概要</p> <p>芝浦地区、天王洲地区では各々協議会 2 回、作業部会 3 回を開催した。</p> <p>第 1 回協議会では、「運河ルネッサンス構想の基本的な考え方」、「地元の市民団体等からの提案」を議論した。第 2 回協議会では、作業部会において議論した地元からの提案事項の整理と、取り組む上での問題点・課題などを踏まえ、それぞれの地区における運河ルネッサンス構想の進め方、取り組みのイメージ案を議論し、取りまとめた。</p> <p>芝浦地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 協議会 : 2 回 (平成 16 年 9 月, 同年 12 月) ○ 作業部会 : 3 回 (平成 16 年 11 月, 同年 12 月, 平成 17 年 1 月) ○ 構成メンバー : 地元町会・商店会・企業団体・開発者・NPO・港区・東京海上保安部・東京港湾事務所・東京都 <p>天王洲地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 協議会 : 2 回 (平成 16 年 9 月, 同年 12 月) ○ 作業部会 : 3 回 (平成 16 年 11 月, 同年 12 月, 平成 17 年 2 月) ○ 構成メンバー : 観光協会・企業団体・NPO・品川区・東京海上保安部・東京港湾事務所・東京都 <p>水域利用の規制緩和についての検討</p> <p>本調査費以外の財源等により本調査の一環として行った活動の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ e モニターアンケート
6. 本調査と関連する活動実績	<p>(水域占用関係の条例などの改正)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運河ルネッサンスの取組みが円滑に進むよう、手引きとなるガイドライン(実施要綱)を作成。 ○ 運河空間を活用した賑わいの創出や地域活性化という新たなニーズに応え「運河ルネッサンス推進地区」においては、水上レストランや観光栈橋の設置が可能となるよう水域占用許可基準を改正。 ○ 現行の条例で 1 年だった水域占用期間を 3 年に延長、占用許可期間が年度を超える場合の占用料等の納付方法を新たに規定。 <p>(地元の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ イベントの実施(芝浦運河ざこ市場) ○ 芝浦小学校総合学習(もっと知りたい芝浦の運河)

<p>7. 本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など</p>	<p>(芝浦地区)</p> <p>運河の利活用についての地元の結束力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 協議会当初は、地元からの運河利活用に関する提案が少なかったが、作業部会の議論を経て、積極的な提案や町内会や商店会などを中心とする地元の結束力が高まった。 ○ 例えば、運河の内部護岸の開放化においては、従来は都の整備、区の管理といった役割で進められてきたが、地元から、整備済内部護岸の開放化に向けた地域住民の意見調整といった、新しい官民の役割分担も提案された。 ○ イベント（芝浦運河ざこ市場）におけるクルーズ運航を通じて、運河に対する一般市民の関心が高いことを実感し、今後の運河沿いにおけるイベント等の積極的な取り組みが期待される。 <p>(天王洲地区)</p> <p>まちづくり活動の連携拡大と地元との合意形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 当初、天王洲アイル地区を周辺とした運河利活用に関する提案が主であったが、作業部会の中で、旧東海道を中心とする品川宿のまちづくり活動との連携についての提案があり、運河ルネッサンス構想の対象範囲を、品川浦も含めた地域に拡大し、まちづくりと連携した構想をとりまとめることができた。 ○ 事業者から提案のあった観光棧橋等の設置に関する提案に関しても、作業部会の中で、水域利用者などの関係者と合意を得ることができた。
--------------------------------------	---